

報道機関各位

## 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 「プロジェクト演習」全体発表会の開催について

岩手県立大学ソフトウェア情報学部（以下、「県立大学」）では、様々な地域課題を解決し、岩手の幸せに貢献できる教育研究をめざしています。また、本年度より文部科学省「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成（enPiT）」の連携大学として選定され、情報技術を高度に活用しながら社会の具体的な課題について解決する人材育成機能を強化するとともに、産学協働による課題解決型学習等の実践的な教育を推進しています。

この一環として1～3年生の全員が受講する「プロジェクト演習」（必修科目）では、地域から提供された地域課題について日々の授業の中で学び、情報技術（ICT）を活用した解決案を考えるという実践的な教育を学年の壁を越えて実施しており、これまで経済産業省「社会人基礎力を育成する授業 30 選」に選定されるなど、高い評価を受けています。

本授業の最終日である 1 月 25 日（水）には学生グループによる「全体発表会」を実施することといたしました。発表会では、80 グループによるポスター形式の発表が行われ、課題提供者を含め、30 名以上の企業等の方々にお越しいただき、学生に対し評価・アドバイスをいただきます。480 名の学生はアドバイスを通じて「地域を学び、地域で学ぶ」意義について学びます。発表が優れているグループには、課題提供者から賞品も含めた表彰をしていただく予定です。当日のご取材についてよろしくお願ひします。

### 記

#### 1. 授業名：「プロジェクト演習」

1～3 年生の学年混成グループで「ICT を活用し地域課題を解決する」プロジェクトに取り組み、問題解決案を提案する。

##### (1) 講義の詳細について：

別紙資料（1）参照

##### (2) 本年度の地域課題（各課題の詳細は別紙資料（2）参照）：

- ・スターティアラボ株式会社提供  
「紙とデジタルの融合を発展させる AR 活用法の提案」
- ・盛岡ターミナルビル株式会社 フェザン提供  
「岩手県内周遊・観光をより豊かにするためのオブジェクト群と連携する O2O 施策の提案」
- ・株式会社カガヤ提供  
「従業員が心身共に生き活きと活躍するための人事部施策を支援するシステムの提案」
- ・岩手県立大学健康サポートセンター提供  
「岩手県立大学生に対する健康増進を推進するシステムの提案」

#### 2. 最終回「全体発表会」：

80 グループ、480 名以上が参加して各グループの提案を課題提供者、外部参加者、受講学生に対してポスター形式で発表。教員及び課題提供者による審査により各賞を決定。

(1) 日 時：平成 29 年 1 月 25 日（水）13:00～15:45（学生発表 13:10～14:50、表彰式・講評 15:05～15:45）

(2) 場 所：岩手県立大学体育棟アリーナ

---

<本件の問い合わせ先> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 後藤裕介  
電話 019-694-2698 Email: y-goto@iwate-pu.ac.jp

## プロジェクト演習について

### 1. 本演習の狙い

本演習では、社会におけるチームプロジェクトを体験することを主題とする。そのために、1～3年生の学年混成のチームを編成することが最大の特徴であり、学部生全員がこれを3年間経験する。このとき、学年ごとに主たる目標を変えることで、それぞれの立場におけるスキルを獲得し、経験を積むことを狙っている。

本演習においては、年齢や能力の異なるメンバーの集まりにおいて、根拠に基づいた問題発見・解決を推進し、自分の適性・能力に気づき、チームへの貢献のために自ら行動する、という目標を掲げている。

そのため、教員の役割は状況確認（および最低限のアドバイス）にとどめ、方向付けを行うような意見は出さないこととしている。学生たちは、チームごとに自分たちで議論を進め、宿題を設定し、それを基にまた議論をするサイクルを回すことで、成果発表会に向けた企画作りを行っていく。

本演習の取組は、経済産業省「社会人基礎力を育成する授業30選」に選ばれた（2014年2月）。

（ご参考）<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku30sen.html>

### 2. 学生の履修形態

学年ごとに主とする学習目標を設定し、3年間かけてチームプロジェクトにおける多様な立場を一通り経験する。3年間の継続的な演習によって、それぞれのスキルを自分のものにする。

研究室の異動などもあるため、同じメンバーで組むことが前提とはなっていない。担当者によっては、年度ごとに同じメンバー構成にならないように意図的にシャッフルするなどの工夫をしている。

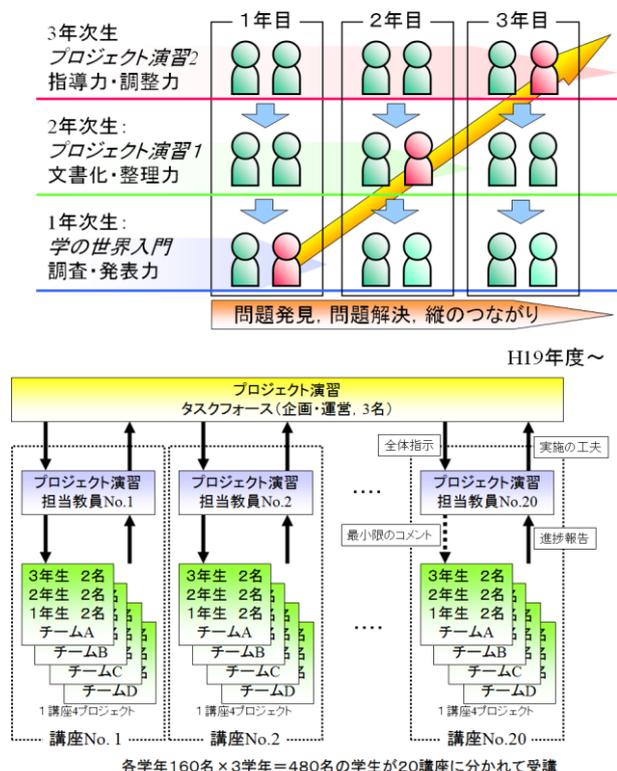
### 3. 実施体制

授業内容を設計し全体を統括するタスクフォースを中心に、各研究室における担当教員が授業を行う。各研究室で、数グループが構成され、全体では、80グループ程度となる。

中間発表は、個々の研究室内で行われるが、最終発表会は、全チームを集めて体育館にてポスター発表を実施する。



### 学年混成システム構成



<別紙資料 (2) >

## テーマA：紙とデジタルの融合を発展させるAR 活用法の提案

スターティアラボ株式会社

### 課題の背景

スターティアラボでは、AR (Augmented Reality; 拡張現実) の技術を使ったサービスとして、COCOAR (ココアル) というサービスを展開している。顧客は、AR を作りたい・使いたい企業であり、例えば雑誌の出版社にサービスを導入してもらい、特定のページにARを設定し、カメラの先にある現実画像・動画・3Dなどのコンテンツを付与することで、付加価値・訴求力向上の手段として利用して頂いている。

COCOAR は、印刷業・広告業・出版業のお客様を中心に約1100社の導入実績がある。「COCOARを導入いただいたお客様の声[1]」にあるように、企業ごとに導入の目的やターゲット、今後の活用方法はさまざまである。しかし、いずれの導入企業においても、紙とデジタルの融合による新しい伝達手段の可能性(付加価値)に言及しているものの大きな利益につながっておらず、新しい活用法(技術)の登場が大きく期待されている。

そこで、消費者に熱心なファンを獲得するための新しい活用法(技術)の提案をお願いしたい。具体的には、現在使われている活用法(技術)を発展させたり、新たな活用法(技術)を考案したりするなどして、消費者が使いたい・見たいと思えるような提案をお願いしたい。

### 提案の達成目標

- ・ 目標1：特定の業種・企業・サービスに関する調査・分析が網羅的になされ、解決ポイントが効果的であること
- ・ 目標2：提案する活用法(技術)の特性と問題分析の結果の組み合わせの適切さが説得的に説明されていること

## テーマB：岩手県内周遊・観光をより豊かにするためのオブジェクト群と連携するO2O施策の提案

盛岡ターミナルビル株式会社 フェザン

### 課題の背景

今まで盛岡駅・駅ビルフェザンは岩手の交通拠点としての役割を担ってきました。今後、盛岡駅・盛岡駅ビルフェザンは、交通拠点としての役割だけではなく、「ヒト・モノ・文化の地域における交流ターミナル」としての役割も積極的に担い、観光客に対して、又、地域の人々に対しても岩手の魅力を発信する、観光・周遊のターミナルになっていきたいと考えています。

2016年3月、盛岡駅ビルフェザンは核となるエリアのリニューアルを予定しています。これに関連し、盛岡駅及び盛岡駅ビルフェザンの共同プロジェクトとして、観光客が岩手の魅力を感じてもらえるよう、岩手の観光スポット・先人・文化等を紹介するオブジェクト群を既存のものに加え新規制作・設置する予定です。

設置予定のオブジェクト群を通じて観光客が(1)オブジェクトに関連する地への観光や関連する商品購買・飲食の促進、(2)オブジェクトに関連する背景・歴史の理解の深化をできるようにしたいと考えています。しかしながら、オブジェクトの設置のみではこれらの目的は十分に達成できず、webと連動することで(1)(2)の高い水準での実現が可能になると考えていますが、具体的な着想にまで至っていません。

現実世界のオブジェクトとウェブ上の施策の連携を通じて観光客の周遊・観光をより豊かにするためには、施策は対象観光客の特性や行動上の特徴などをふまえた上で訴求するものでなければ十分な効果がでないと考えています。以上の問題関心をふまえて、岩手県内周遊・観光をより豊かにするためのオブジェクト群と連携するO2O施策を提案してください。

### 提案の達成目標

- 目標1：上述課題(1)(2)の1つ以上を対象としたO2O施策が提案されること
- 目標2：施策導入により、(1)(2)のいずれかに関し十分な効果が見込まれること

## テーマ C：従業員が心身共に生き活きと活躍するための人事室施策を支援するシステムの提案

株式会社カガヤ

### 課題の背景

株式会社カガヤ 1)は経営理念である「いつまでも人びとの記憶に残る感動を与えられる製品づくり」を目指し、鋼構造物事業を中心として展開し、創業 45 周年を迎えます。人事室では「企業の競争力、成長の原点には必ず人」と考え、従業員が心身共に生き活きと活躍できるように適正な人員配置などの日々施策を検討しています。特に従業員一人ひとりの特徴をふまえたきめ細やかなケアを目指しています。

しかしながら、企業の成長に伴い従業員は 300 名程度まで増えている一方、人事室の人員は必ずしも十分におらず、また人事労務管理に関する情報に関して電子化は十分に進んでおらず、データを適切に加工・分析し、人事室施策に関する判断のための情報が有効・効率的に入手できる段階には至っていません。特に (1) 鋼構造物事業の各種業務の特徴をふまえた上での各従業員の適性評価、(2) 心身健康上の変調の検知の 2 点を現在の課題として認識しています。

現在は経験・勘に頼らざるを得ない状況であるため、人事・労働・労務管理に関する科学的知見や有力な経験則などエビデンスに基づいた意思決定支援が必要であると痛感しています。また、実現のための具体的な技術・アルゴリズムや手順、必要なデータなどを知りたいと考えています。上述の問題関心をふまえて、従業員が心身共に生き活きと活躍するための人事室施策を支援するシステムの提案をお願いします。

### 提案の達成目標

- 目標 1：上述の課題から 1 つを対象とし、これを支援するシステムが提案されること
- 目標 2：システム導入により、有効性・効率性のいずれかに関し効果が見込まれること

## テーマ D：岩手県立大学生に対する健康増進を推進するシステムの提案

岩手県立大学健康サポートセンター

### 課題の背景

近年、食文化の欧米化、過食状態、運動不足等により、生活習慣病の低年齢化が問題となってきている。この問題に対して、一人暮らしをはじめることが多い大学生時代に規則正しい生活習慣を身につけ、健康を維持していくことが大切であると考えられる。

健康サポートセンターでは、学生及び教職員のこころとからだの健康の保持増進を図ることを目的として、健康診断、健康相談、救急処置等の業務を行っている。特に、学生に対しては、健康に関する知識の普及啓発及び自分自身の健康管理が身につくような支援として、健康診断後の事後指導や健康講座等を行っている。

このような支援や活動にも関わらず、①学生健康診断時に実施している健康調査表のアンケートによると、「朝食を食べない」「食事バランスが悪い」と回答する学生は学年が上がるごとに増加、②学年が上がるごとに健康診断受診率が低下、③健康講座への参加が少ないなどの問題がある。

これらの問題に対しては健康サポートセンターでは、健康診断事後指導の方法を工夫、健診未受診者への健診期間中のメールでの受診の呼びかけ、健康診断や健康講座の周知方法の工夫などを行ってきている。しかし、未だ学生の心に届くような効果的な方法が見つかっていない。

そこで、今後も学生への健康増進に関する取り組みを実施していくにあたり、効果的で学生のこころに届くような方法の提案をお願いしたい。具体的には、今行っている業務や支援などをさらに発展させたり、新たな取り組みを提供したりするなど、県立大学生に対する健康増進をより推進するためのシステムの提案をお願いしたい。

### 提案の達成目標

- 目標 1：健康に関する業務の中から 1 つの取組を対象として、これを支援したり、促進したりするようなシステムが提案されること
- 目標 2：システムを導入・運用した結果、学生の健康に関する意識の向上につながり、健康診断受診者や健康講座参加者が増加すること

(以上)